

小児慢性肝疾患の実態に関するアンケート調査

— 予備調査報告 —

(分担研究：小児の肝疾患に関する研究)

白木和夫、谷本 要

要約：小児慢性肝疾患の実態を明らかにするため全国の主要病院にアンケート調査を計画しているが、本年はアンケート内容を検討する目的で本研究協力者の施設を対象に予備調査を実施した。その結果実施に際してのいくつかの具体的問題点が明らかにされた。

見出し語：小児慢性肝疾患、アンケート調査、予備調査

小児慢性肝疾患の実態を明らかにする目的で全国の主要病院小児科を対象にアンケート調査を行なう計画であるが、アンケート内容を検討するために本年は本研究協力者の施設を対象に予備調査を実施した。

対象と方法

今回のアンケート調査の対象は、1990年1月1日から1990年12月31日までに外来受診あるいは入院した患者とした。対象施設は東邦大学医学部小児科、和歌山県立医科大学小児科、国立金沢病院小児科、秋田大学医学部小児科、名古屋市立大学医学部小児科、北海道大学医学部小児科、岐阜大学医学部小児科、独協医科大学越谷病院小児科、

鳥取大学医学部小児科学教室

防衛医科大学小児科、大阪大学医学部小児科、国立長崎病院小児科、鳥取大学医学部小児科の計12施設である。

調査項目は病院病床数、小児科病床数、年間小児科入院患者数、年間小児科外来患者数、小児死亡例数、肝疾患による小児死亡例数および表に示した慢性肝疾患の患者数、通院状況、入院状況とした。

結果

1. 病床数

12施設合計の病床数は9042床で、小児科の病床はそのうち606床であった。年間小児科入院患者数は11施設で5905名であった。(ただし回答のな

かった1施設を除く、この施設の小児科病床数は108床であった。)

2. 外来患者数、死亡例数

年間小児科外来患者数は213、306名(1施設除く)であった。小児死亡例数は145例(1施設除く)、うち肝疾患によるものは2例であった。

3. 小児慢性肝疾患患者数

集計された小児慢性肝疾患は表に示したように、計571例であった。このうち最も多かったのはB型慢性肝炎の139例で、以下多い順に、乳児の原因不明の肝機能障害59例、胆道閉鎖症56例、脂肪肝52例、C型慢性肝炎48例、先天性胆道拡張症26例となっていた。

4. 小児慢性肝疾患入院患者数

延べ入院患者数は胆道閉鎖症が最も多く25例が入院していた。以下多い順に、B型慢性肝炎24例、脂肪肝17例、C型慢性肝炎13例、肝以外の悪性新生物に伴う肝機能障害(薬剤性)13例、肝以外の悪性新生物に伴う肝機能障害(輸血後)13例となっていた。

5. 入院日数

入院日数は1年間にわたって入院を必要とした疾患が、胆道閉鎖症2例、B型慢性肝炎1例、Kinky hair disease 1例存在した。平均して1か月以上にわたって入院を必要とした疾患が23あり、小児慢性肝疾患の入院期間がかなり長期になっていることが考えられた。

6. 外来通院状況

表には示さなかったが、各疾患毎の外来通院状況を週1回、週2回、月1回、年6回、年4回、

年3回、年2回、年1回にわけて調査した。月1回の通院が最も多く、206例であった。以下多い順に、年4回、年6回、年2回となっていた。

問題点

1. 小児科の病床数が確定していない病院の病床数をどの様に扱うか
2. 年間を通じた場合、複数の病院に通院している例があり、このような例をどう把握するか
3. 通年で入院している患者が存在し、このような患者を外来通院との関連でどの様に取り扱うか
4. 未熟児・新生児センター(周産期センター)をどの様に取り扱うか
5. 慢性肝疾患で通院している患者が外来患者数に占める割合をどの様にして算出するか
6. 疑診例をどの様に扱うか
7. 悪性新生物に伴う肝機能障害例をどの様に扱うか
8. 検査入院と加療のための入院をどう扱うか
9. 長期入院患者の実数を把握する必要があると考えられた。
10. HBVキャリアを慢性肝疾患の中に含めて扱うかどうか

今回の予備調査から以上が問題点として上げられた。全国の主要病院を対象としてアンケート調査を行うにあたって、できるだけ簡素な質問で上に述べた問題点が解決された調査表を作成する必要がある。また、平成元年度の研究報告書において衛藤が検討を加えた全国の対象施設についても具体的にどの様にして主要病院を選択するかが今後に残された問題である。

表 アンケート調査結果

	例数	入院患者数 (延べ)	入院日数(平均)	死亡 例数
1) ウイルス肝炎 (1) B型慢性肝炎	139	24	1181 (49)	1
(2) C型慢性肝炎	48	13	294 (23)	
(3) 非A非B型慢性肝炎	21	7	33 (5)	
(4) EBVによる慢性肝炎	5	4	508 (127)	
(5) CMVによる慢性肝炎	6	6	203 (34)	
(6) 単純ヘルペス	4	4	248 (62)	
2) 肝硬変	3	1	7 (7)	
3) 胆汁うっ滞 (1) 胆道閉鎖症	56	25	1779 (71)	
(2) 先天性胆道拡張症	26	5	40 (8)	
(3) 新生児肝炎症候群	9	7	323 (46)	
(4) 肝内胆管減少症 (Alagille 症候群)	9	4	74 (19)	
(5) 進行性肝内胆汁うっ滞症 (Byler 病)	1	1	215 (215)	
(6) その他の特発性慢性 肝内胆汁うっ滞症	3	2	79 (40)	
4) ビリルビン 代謝異常症 (1) Crigler-Najjar 症候群	1	1	34 (34)	
(2) Gilbert 症候群	7	3	61 (20)	
(3) Lucey-Driscoll 症候群	0	0	0	
(4) Dubin-Johnson 症候群	3	1	48 (48)	
(5) Rotor 病	0	0	0	
5) 肝腫瘍 (1) 肝芽腫	6	5	211 (42)	
(2) 肝細胞癌	3	3	254 (85)	
(3) その他の肝腫瘍	2	1	184 (184)	
6) 肝膿瘍	1	1	?	
7) 原因不明の肝機能障害 (乳児)	59	7	179 (26)	
(幼児・学童)	20	5	202 (40)	1
8) 自己免疫性肝炎	3	2	121 (60)	
9) 原発性硬化性胆管炎	1	1	14 (14)	
10) 肝以外の悪性新生物 に伴う肝機能障害 (白血病も含む)				
輸血後	22	10	438 (44)	
薬剤性	14	13	757 (58)	
11) その他 (1) 脂肪肝	52	17	346 (20)	
(2) ウイルソン病	14	5	264 (53)	
(3) 糖原病	22	8	304 (38)	
(4) 薬剤性	4	3	275 (92)	
(5) 特発性門脈圧亢進症	2	2	136 (68)	
(6) バンチ症候群	2	2	20 (10)	
(7) カロリー病	1	1	10 (10)	
(8) Kinky hair disease	1	1	365 (365)	
(9) チロジン血症	1	1	2 (2)	



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:小児慢性肝疾患の実態を明らかにするため全国の主要病院にアンケート調査を計画しているが、本年はアンケート内容を検討する目的で本研究協力者の施設を対象に予備調査を実施した。その結果実施に際してのいくつかの具体的問題点が明らかにされた。